

# 福島子どもプロジェクト2012・夏 活動報告書



## 福島×ベネズエラ×ロサンゼルス 音楽交流プログラム



# 避難から飛躍へ

## 音楽が育んだ未来への希望と友情

「屋外で十分に身体を動かせない」「仮設校舎や避難先で落ち着いて勉強できない」など、東日本大震災と原発事故に見舞われた福島県の子どもたちは、いまだ厳しい生活環境を余儀なくされています。私たちは、“保養”と“国際交流”の体験を通して、子どもたちに“夢と健康”を届けたいと、2011年の震災後から「福島子どもプロジェクト」を立ち上げ、実施してきました。

2012年の夏は、“音楽”というテーマを加え、福島の高校生がプロジェクトに参加しました。交流相手となったのは、南米ベネズエラの若き音楽家たち。彼らは、音楽の力で言葉の壁を越え、すぐに打ち解けました。約2週間の船旅での共同生活、毎日の合同練習による成果を帰国後のコンサートで披露し、福島の皆さんをはじめ聴きに来られたたくさんの方々を勇気づけました。

その後、福島の高校生の中には、今度はベネズエラに行くためにスペイン語の勉強や貯金を始めたメンバーもいます。積極的に、後輩の指導にあたるようになったメンバーも多いそうです。この旅で芽生えた希望と友情が、さらに大きく育っていくことを期待しています。

プロジェクトを支えていただいた皆様への感謝を込めて、活動報告とさせていただきます。



### 「福島子どもプロジェクト」呼びかけ人

加藤登紀子(歌手) / 鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)  
香山リカ(精神科医) / 田中優(環境活動家) / 田部井淳子(登山家)



# 参加者紹介

## 【福島／FTV(福島テレビ)ジュニアオーケストラ】

1974年、福島テレビ開局10周年に合わせて結成された青少年楽団で、福島市や郡山市など、県内各地の小学4年生から高校3年生までの約100名が所属しています。東日本大震災により、練習場としていた福島テレビの本社ビルが大きな被害を受けたり、メンバーが県外に避難したりと、約2ヶ月間練習ができないという存続の危機も経験しました。今回プロジェクトに参加したのは、金管楽器4名と弦楽器3名の高校生(1年～3年)と、講師1名の計8名です。



## 【ベネズエラ／シモン・ボリーバル音楽財団「エル・システマ」】

1975年、ホセ・アントニオ・アブレウ博士によって始められた音楽教育システムで「エル・システマ」と呼ばれています。貧困や青少年犯罪の増加といった社会問題を解決する取り組みとしても、世界的な評価を受けています。今回プロジェクトに参加したのは、「エル・システマ」のバルガス州地域オーケストラ。金管楽器4名と弦楽器1名、打楽器1名の計8名の若き音楽家で、1999年に3万人が犠牲になったと言われる大洪水を経験したメンバーもいます。



# プログラム行程

- 6月13日 プロジェクト発表  
福島、ベネズエラ、ロサンゼルスで本番に向けて準備
- 7月31日 福島の高校生が出発。成田空港から空路、ロサンゼルス(米国)へ
- 8月01日 ロサンゼルスにて「YOLA (Youth Orchestra LA)」と交流  
「ディズニー・コンサートホール」訪問、「EXPO」にてミニコンサート
- 8月02日 陸路、エンセナーダ(メキシコ)へ  
メキシコのユースアンサンブルと合同コンサート
- 8月03日 「第76回ピースボート 地球一周の船旅」に乗船  
「エル・システマ」のメンバーが合流  
船内での交流プログラム、合同練習(洋上14日間)
- 8月17日 横浜港へ帰港・来日
- 8月18日 東京・津田ホールにて、帰国コンサート

※「エル・システマ」のメンバーは、その後、静岡県や明治学院大学でのコンサートにも出演し、8月22日に空路、ベネズエラに帰国しました。





# 旅の記録

## 【ロサンゼルス】 ～移民社会を支える音楽活動を学ぶ～

- ・「YOLA ( Youth Orquestra LA ) 」と「EXPO」を訪問。  
音楽教育を学び、演奏を披露しました。
- ・「ディズニーコンサートホール」へ。音響設計を手がけた豊田泰久さんによる案内。



## 【メキシコ】 ～地球の反対側からの応援を知る～

- ・「ベニン音楽アカデミー」のアンサンブルと合同コンサート。
- ・「震災後、福島のことを心から心配した」という言葉に心を打たれました。



## 【ピースボート洋上】 ～ベネズエラのメンバーと交流～

- ・1日約2時間の全体練習、パート別練習。音も、友情も日増しに調和していきます。
- ・船内コンサートでは、500人も聴衆を感動させました。



## 【船内生活】 ～960名の参加者に支えられて～

- ・船の生活では、年齢も出身も様々なクルーズ参加者・約960名がサポーター。
- ・朝は、360度の大海原に囲まれて、ラジオ体操からスタート。
- ・スペイン語、日本語、お互いの言語の勉強にも力が入ります。

### 船内の1日

- 6:30 ラジオ体操
- 7:00 朝食
- 8:00 勉強タイム  
夏休みの宿題
- 10:00 全体練習
- 12:00 昼食
- 13:00 デッキにてサッカーや  
バスケットボール
- 15:00 パート別練習
- 16:00 船内企画、講座に参加
- 19:30 夕食
- 22:00 ホームルーム
- 就寝(福島とベネズエラの各子ども4人相部屋)





## 【帰国コンサート】

メンバーの帰国・来日の翌日8月18日、東京・津田ホールにて、成果発表となる帰国コンサートを開催しました。ご招待した福島県から避難中のご家族を含め、約500名・満員の来場者の前で、プロジェクト呼びかけ人でもある加藤登紀子さん、鎌田實さんのお二人そしてNTT東日本東京吹奏楽団の皆さんと共演。子どもたちは感動的なステージを見せてくれました。



### コンサート後に寄せられたメッセージ。 ～福島から関東に避難生活中の方より～

ジュニオケ (FTVジュニアオーケストラ) とベネズエラ「エル・システマ」の演奏には、とてもパワーをいただきました。震災、原発事故、そして避難後から心の中で渦巻く悔しさ、悲しさ、憤り、変わってしまったふるさとへの想い、そして私たちに寄り添ってくれる人たちがいることへの喜び、感謝、希望、たくさんのが音楽によって自然と涙という形であふれてきました。

たぶん、私はずっとこうして、ただ泣きたかったんだと、気付きました。泣くに泣けずずっと走ってきて、やっと泣けたんだと思います。演奏が終わり、涙が止まった時、とても清々しい気持ちでした。音楽から、希望をいただいた1日でした。



# 参加者からのメッセージ

## 【福島】



葛西佑紀 (ヴァイオリン)  
言葉が通じないから苦労するかと思ったけど、音楽を通してコミュニケーションを取ることができたので音楽は世界共通なんだと改めて実感しました。



藤田友喜 (ヴァイオリン)  
ベネズエラみんなは明るく元気だと感じました。また音楽が人間に与える力は大きいし、影響力があることも実感しました。



菊地美穂 (ヴァイオリン)  
ベネズエラみんなと一緒にコンサートを作り上げ、船の参加者にも、日本で待っていてくれた人々にも喜んでもらったことに感動を覚えています。



大森聡志 (トランペット)  
自分の将来を考えることができ、夢を大切にしていきたいと改めて思っています。



佐藤啓太 (ホルン)  
人生の中で大きな出来事になったと思います。ベネズエラやロサンゼルスにもまた行きたいと思えます。忘れられません。



大波さくら (トロンボーン)  
この経験をどう生かせるかが、今後の私の課題です。次に会うときは、スペイン語も演奏技術もレベルアップさせてみんなをびっくりさせます！



河野翼 (トロンボーン)  
言葉を使うとあまりうまくコミュニケーションをとれないけど、音楽で心が通じ合った。まだまだ音楽に関して未熟なので、どんどん吸収し、深めていきたいです。



竹田学 (講師/引率)  
ベネズエラのメンバーとの交流と大海原の碧さが心に残っています。また、帰国後、子どもたちが積極的になり、明るくなったことも驚きです。

## 【ベネズエラ】



ヘスス・グスマン (ヴァイオリン)  
今回の旅で一番インパクトがあったのは、広島・長崎の歴史、そして福島原発事故後の放射能の影響。同世代の友達や、音楽によって気持ちを表現し、新しい道を開き、いつかまた一緒に演奏できること楽しみにしています。



レプサイ・フェルナンデス (ビオラ)  
もしいつの日か、オーケストラ人生で一番印象に残っていることを質問されたら、私はこのプロジェクトに参加したことを真っ先に伝えるでしょう。



マリアナ・ゴメス (チェロ)  
福島みんなと出会い、福島のことをもっともっと知りたいと思うようになったのは、いまこの時代に生きる中で大切なことだと思います。



ウィルソン・ペレス (コントラバス)  
福島みんなと旅をすることは、僕にとって大きな経験だった。



ジョアン・ラモス (ホルン)  
よりよい世界に生きていこうという活力を与えてくれました。



ガブリエル・アルバレス (トランペット)  
グスターボ・ドゥダメルのような有名な音楽家になって、福島みんなと再会したい。



ロジェール・ヒメネス (パーカッション)  
福島みんなと出会い、事故のことを知ったのは、僕の人生でとても大きなことだった。



アリジュリ・カラバジョ (ヴァイオリン/引率)  
1999年、「バルガス州の悲劇」(大洪水)が私たちを襲い、私は避難所生活を余儀なくされた子どもたちに音楽を教えていました。福島の高中生らとの交流の話を聞いたとき、災害への恐怖心や不安感から逃れるようお手伝いできたら、と考えました。この素晴らしい機会に、感謝の気持ちでいっぱいです。

### 福島の高校生の保護者より

帰国後は、ベネズエラの仲間とつながり続けるためにスペイン語を勉強したり、オーケストラの中でも年下の団員への指導が丁寧になったり、引っ込み思案だった娘が一步踏み出したように思います。この素晴らしい機会に感謝します。

### FTVジュニアオーケストラ事務局担当者より

事故後の生活から離れ、気持ちを発散し、明るい未来を見出してくれたと思っています。帰国後のみんなはリーダーシップを発揮し、オーケストラ全体の雰囲気盛り上げようと頑張っているのが見受けられます。



# プロジェクト呼びかけ人からのメッセージ



福島やベネズエラの若者を支えていただき、ありがとうございました。ぼくは、子どもの健康を守るには「健診」「放射能の見える化」「保養」が大事とってきた。外国をみるという夢と、外国に友達をつくるという夢をかなえさせてあげたいと思って、このプロジェクトの応援団長を引き受けた。この旅は「保養」にとどまらない。元気に帰国した子どもたちを迎え、家族も元気になったという。とてもいいことだ。これからも、あたたかさの連鎖が続いてほしいと思っている。

鎌田 實（諏訪中央病院名誉院長）



チェルノブイリでは、ヨーロッパ各地で保養のプロジェクトがありました。絶望の中、子どもたちの外国での経験が、何年も経ったいまのベラルーシを支える「宝物」になったそうです。大きな視野で、未来に向かったビジョンで、子どもたちを守りたい、そう思っています。悲しみを乗り越えるためにも、私たちは未来を「創る」選択をしていきませんか。大丈夫、命はそんなにひ弱じゃない。福島の子どもたちを、私たちの未来を、みんなで守っていきましょう。

加藤登紀子（歌手）

## 収支報告

収入		支出	
寄付金収入	1,850,465	国内旅費交通費	489,497
団体寄付・助成金収入	2,838,582	海外渡航費	3,669,878
コンサートチケット収入	1,233,080	会場費	1,144,450
		広告宣伝費	41,925
		交際費	213,858
		人件費	200,000
		事務用品費	24,473
		消耗品費	72,157
		通信費	2,860
		その他	4,856
<b>合計</b>	<b>5,922,127</b>	<b>合計</b>	<b>5,863,954</b>
		<b>次回プロジェクトへの繰越</b>	<b>58,173</b>

※次回プロジェクトは、2013年3月～4月頃、南相馬市の子どもたちを中心に、オーストラリアでの環境教育プログラムの実施を予定しています。

## ご協力いただいた皆様（団体名は略称表記）

宇井孝司さん(アニメーション監督)/エル・システムジャパン/キッズドア/小林隆平さん(エクアドル在住ギタリスト)/篠原浩一郎さん(BHNテレコム支援協議会)/ジャパングレイス/新宿区社会福祉協議会/スミス恵美さん(YOLA)/駐日ベネズエラ・ポリバル共和国大使館/つながろう!放射能から避難したママネット@東京/トキコ・プランニング/豊田泰久さん(NAGATA ACOUSTICS)・房子さん/日本フィランソピー協会/半澤朝彦さん(明治学院大学国際学部准教授)/福島カツシゲさん(コメディアン)/福島避難母子の会in関東「てとて」/松口直樹さん(藤沢ジュニアオーケストラ)/森下喜久子さん(世界アマチュアオーケストラ連盟)/湯川れい子さん(作詞家・音楽評論家)/吉原功(PRIME研究所員・明治学院大学名誉教授)・なみ子ご夫妻/吉野裕之さん(子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク)/FTVジュニアオーケストラ/Fundacion Musical Simon Bolivar(シモンボリーバル音楽財団)/Gobernacion de Vargas(バルガス州政府)/Ministerio de Relaciones Exteriores de Venezuela(ベネズエラ外務省)/NTT東日本東京吹奏楽団/Orquesta Regional del Estado Vargas(バルガス州地域オーケストラ)/YOLA (Youth Orchestra of Los Angeles)

※個人情報観点から、寄付者お一人おひとりのお名前のご紹介は控えさせていただきますが、皆様に心よりの感謝を申し上げます。

## 団体寄付・助成にご協力いただいた皆様（団体名は略称表記）

小鳥の森ゴルフパーク/ジャパングレイス/信賴資本財団/東日本大震災復興支援財団/三井住友銀行ボランティア基金/モバオク/ラッシュジャパン/リコー社会貢献クラブ・FreeWill/Bridge To Tohoku (British School in Tokyo)/JustGiving Japan/LUSH UK/NTT労働組合中央本部

## メディアでの紹介

毎日新聞・神奈川県版/共同通信/福島テレビ「サタふく」/文化放送ラジオ「日曜はがんばらない」/ニッポン放送ラジオ「高嶋ひでたけのあさラジ!」/サンデー毎日/UTB(米国・テレビ)/Diario la Verdad(ベネズエラ・新聞)/Diario Puerto(ベネズエラ・新聞)/Ultima Noticia(ベネズエラ・新聞)





これからも「福島子どもプロジェクト」にご協力ください。

国際NGOピースボートおよびピースボート災害ボランティアセンターでは  
今後とも、福島の子もたちへの支援を続けていく予定です。  
引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

「福島子どもプロジェクト」への募金は

### 郵便振替口座

00180-3-177458 加入者名:ピースボート  
※通信欄に「フクシマ」とご記入ください

### ゆうちょ銀行

ゼロイチキュー店(019店)当座0177458  
名義:ピースボート  
※振込依頼人名の前に「フクシマ」とご入力ください。



#### 国際NGO「ピースボート」

1983年以来、国際交流の船旅をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。これまでに50回の世界一周クルーズを行い、4万人以上の参加を実現してきました。「平和」「人権」「環境」「グローバル化」に関わる様々な問題に取り組んでいるほか、積極的に地球規模での市民・NGOのネットワークづくりを行っています。

<http://www.peaceboat.org/>

※ピースボートは、国連との特別協議資格を持つNGOです。



#### ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

国際NGOピースボートで行ってきた国内外の災害救援の経験を土台に、2011年4月に設立した一般社団法人です。東日本大震災をはじめ、日本全国の被災地での支援活動を行うほか、災害ボランティアの育成・派遣システムの確立にも取り組んでいます。

<http://pbv.or.jp/>

福島子どもプロジェクト2012・夏 活動報告書

発行:国際NGOピースボート  
一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター  
編集:松村真澄、大村祐子、片岡和志、山本隆  
川崎哲、篠原啓、合田茂広

発行日:2012年11月9日  
写真:片岡和志、水本俊也、上野祥法

この刊物に関するお問い合わせは下記までお願いします。  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1  
TEL:03-3363-7561 FAX:03-3363-7562  
E-MAIL:info@peaceboat.gr.jp